



臨床研究に関する情報の公開

作成日: 2026/09/07

研究課題名	子宮頸癌再発中リスクに対する補助療法についての検討
研究の対象	2015 年 1 月から 2025 年 12 月に KAMOGAWA study 参加施設において初回治療として広汎子宮全摘術施行された、再発中リスクのもの。
研究目的・方法	・ 目的 子宮頸癌の再発中リスク群とは、大きな頸部腫瘍・深い間質浸潤・脈管侵襲のいずれか 1 つ以上を伴うものとされる。再発中リスクに対する補助療法としてガイドラインでは放射線治療が推奨されているが、化学療法を行っている施設もあり、現在のところ最善な補助療法についてのエビデンスが確立していない。他機関後方視的研究により術後補助療法の内容、有害事象、予後情報を集積し、再発/死亡リスクおよび有害事象の観点で放射線療法群と化学療法群のどちらが優れているかを明らかにする。 ・ 方法（研究のデザイン、検査・調査項目、検査スケジュール等） 後ろ向き研究として電子カルテ内に保管された診療記録より情報を収集する。 ・ 評価方法（主要評価項目、副次評価項目等の内容及び評価方法等） 主要評価項目は放射線療法群および化学療法群における 5 年無再発生存率（PFS）、5 年全生存率（OS）、副次評価項目は有害事象発生割合、病理組織別の 5 年 PFS、5 年 OS および再発様式（研究計画書 p6、6.5 および p7、7.2 参照） 研究期間：許可日～2029/3/31
研究に用いる試料・情報の種類	電子カルテ内の既存データ（通常の診療過程で得られた情報）
外部への試料・情報の提供	1. 電子メールによる提供 ・ 診療情報：ファイルにパスワードを設定のうえ、メールにて送信する。 2. 宅配便による提供 以下の試料・情報は、宅配便にて近畿大学へ送付する。一括での送付を原則とするが、病理スライドの準備に時間を要する場合は、後日別送としても構わない。 ・ 画像データおよび読影結果（画像データはCD-R等に取り込むこと） ・ 病理検査結果 ・ 病理スライド（※） （※）病理スライドについては、以下のいずれかの方法にて提供すること。 1) スライド原本を送付する（近畿大学にてバーチャル化を実施後、速やかに返却する。） 2) 分担機関にてバーチャル化済みのデータを送付する。
研究組織	京都大学大学院医学研究科 講師 山ノ井 康二 大阪赤十字病院 部長 岡田 由貴子 国立病院機構大阪医療センター 科長 巽 啓司 北野病院 部長 堀江 昭史 関西電力病院 部長 辻 なつき 大阪府済生会野江病院 医員 横江 巧也 洛和会音羽病院 野溝 万吏 大津赤十字病院 部長 藤田 浩平



	長浜赤十字病院 奈倉 道和 滋賀県立総合病院 医長 星本 泰文 神戸市立医療センター中央市民病院 部長 青木 卓也 兵庫県立尼崎総合医療センター 医長 増田 望穂 公立豊岡病院 部長 松原 慕慶 倉敷中央病院 部長 堀川 直城 天理よろづ相談所病院 部長 住友 理浩 日本赤十字社和歌山医療センター 副部長 山西 優紀夫 国立病院機構 京都医療センター 濱西 潤三 京都桂病院 芦原 隆仁
問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、 研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867 産婦人科医師 若園依未 研究責任者： 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 産婦人科主任部長 堀江昭史 研究代表者： 松村 謙臣 近畿大学医学部 産科婦人科学教室 主任教授